

ネギのネギアザミウマに対する数種薬剤の防除効果

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

ネギアザミウマは吸汁による加害のほか、ウイルス病の媒介虫であることから重要害虫とされている。今回、ネギで数種粒剤および散布剤の防除効果を確認したので、本種の効果的かつ効率的な防除のための参考資料とする。

2 参考資料

- 1) ネギのネギアザミウマに対して、粒剤の定植時植溝混和处理は有効な防除手段であり、ベンフラカルブ（オンコル粒剤5）、カルボスルフエン（アドバンテージ粒剤）、イミダクロプリド（アドマイヤー1粒剤）、ジノテフラン（スタークル粒剤）の各粒剤は、いずれも処理約4週間後までは高い防除効果が得られる（図1）。そのうちイミダクロプリドは、さらに6週間後まで比較的高い効果が持続する（図1）。アセタミプリド（モスピラン）粒剤も処理後2週間は防除効果を得られるが、その後は前記4剤に劣る（図1）。
- 2) ネギのネギアザミウマに対して、散布剤のベンフラカルブ（オンコルマイクロカプセル）、ジノテフラン（スタークル顆粒水溶剤）、スピネトラム（ディアナSC）は、いずれも散布約3～4週間後まで高い防除効果が得られる（図2、3）。ピリダリル（プレオフロアブル）、トルフェンピラド（ハチハチ乳剤）、アセタミプリド（モスピラン水溶剤）、フロニカミド（ウララDF）は、散布約2週間後以降の防除効果は前記3剤に比べてやや劣るものの、高い防除効果が得られる（図2、3）。

3 利活用の留意点

- 1) 薬剤抵抗性の発達回避のため、同一薬剤または同一成分の薬剤の連用は避ける。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

野菜のウイルス媒介虫等難防除害虫の総合的管理技術の開発試験 平成21, 23年度

2) 参考データ

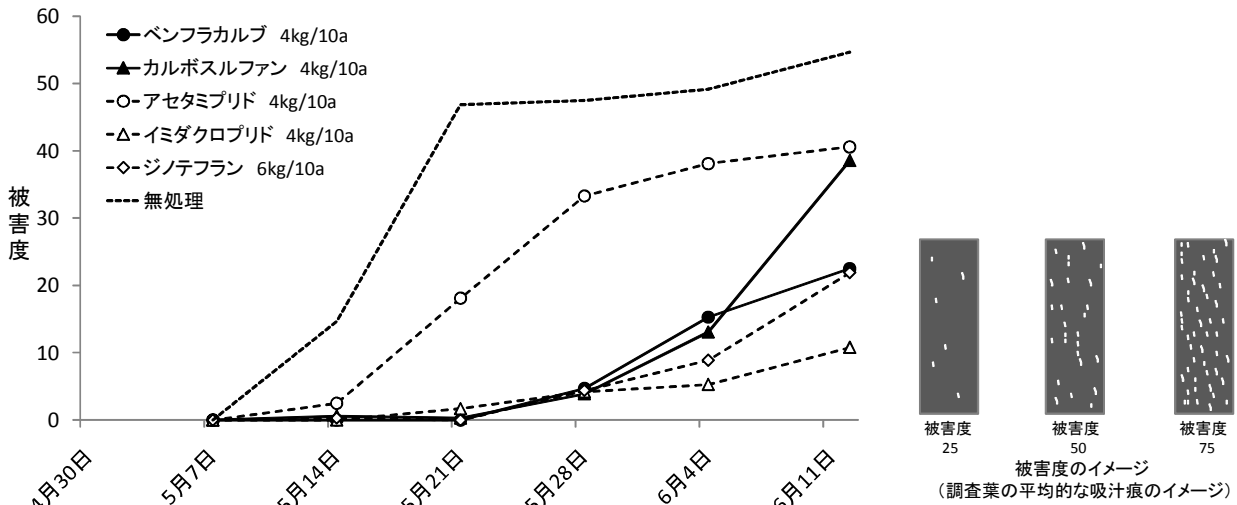


図1 ネギアザミウマに対する各粒剤の防除効果(平成21年)

品種: ホワイトスター 粒剤処理月日(定植日): 4月30日 調査: 各薬剤につき1区30株, 3反復
 被害度: 各株の最大葉について, 農作物有害動物発生予察事業調査実施基準の被害程度(A,B,C,D,0の4段階)を調査し下の式で算出(以下の図も同じ)

$$\text{被害度} = ((4 \times \text{Aの株数}) + (3 \times \text{Bの株数}) + (2 \times \text{Cの株数}) + (\text{Dの株数})) / (4 \times \text{全調査株数}) \times 100$$

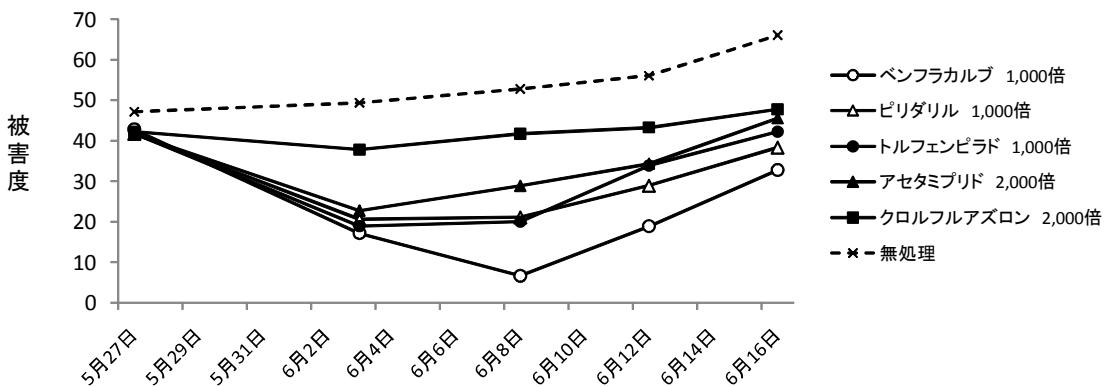


図2 ネギアザミウマに対する各散布剤の防除効果(平成21年)

品種: ホワイトスター 散布月日: 5月27日 調査: 各薬剤につき1区15株, 3反復

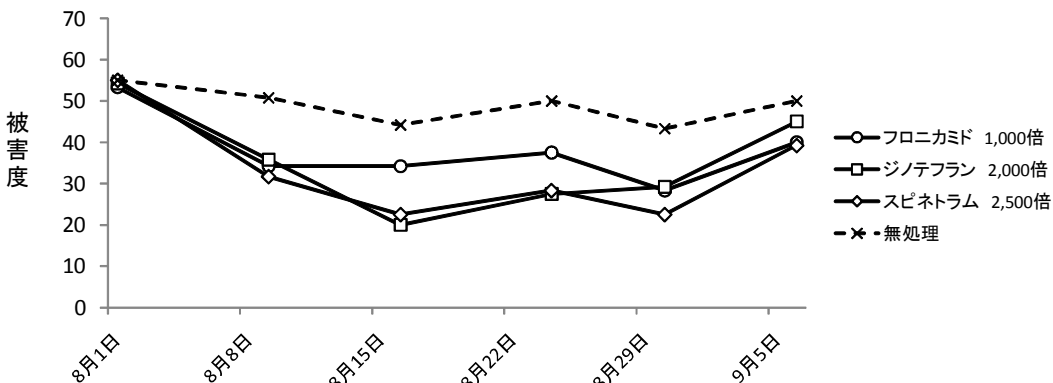


図3 ネギアザミウマに対する各散布剤の防除効果(平成23年)

品種: ホワイトスター 散布月日: 8月2日 調査: 各薬剤につき1区20株, 3反復

3) 発表論文等 なし

4) 共同研究機関 なし